
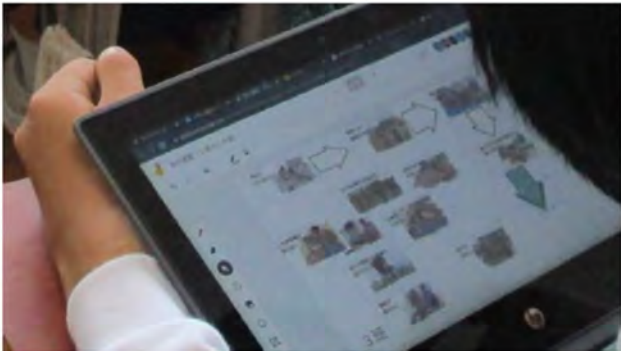


単元名	国際理解											
対象校種	□小学校☑中学校□高等学校□特別支援学校	総合的な学習の時間										
教科の目標	SDGsの達成のために解決しなければならない課題に関心を持ち自分たちの生活を見直しながら課題解決に向けて自分たちができることを考える。											
実践の様子 第1時	<p>○本時の課題を把握する。</p> <div data-bbox="331 421 1410 465" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「教育を受けられないことで起こる”負の連鎖”を考えよう」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教育を受けられないとしたらどんなことが起こるか問いかけ、課題に対する意欲を高める。  <p>○“学校に行けない”カードを起点として、カードを並べる。(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA地球ひろば「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集p25にある、ワークショップを活用する。  <p>○負の連鎖を断ち切るためにSDGs17の目標をもとに国や企業が行っていることを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本企業の国内に対する支援について調べることで今回の問題が、発展途上国だけの問題ではなく、身近なこととして、日本や先進国にも存在していることに気付けるように助言する。 ・タブレットを使って、情報を収集したり、まとめたりする。 <p>○感想・まとめ・授業を通して学んだことを振り返りながら自分自身ができることについて感想を交えながらまとめる。</p> <div data-bbox="826 1191 1423 2011" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">教育を受けられないことで起こる“負の連鎖”を考えよう</p> <p style="text-align: center;">3組</p> <ol style="list-style-type: none"> “学校に行けない”ことで生じる問題を考えてみよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・社会にママ使わなくて、学べない。 ・勉強ができない。(授業を受けられなくてできない) ・人間関係が難しい。 ・「感」につくことが難しい。 </div> “学校に行けない”ことで派生する負の連鎖について、カードを使って考えよう <ol style="list-style-type: none"> 負の連鎖カードを切る 問題から派生する問題を考え並べる(学校に行けないからスタート) 負の連鎖カード台紙にカードをのりで連鎖(輪)になるようにはりつけ、矢印を書いてつなげる。(思いついたものがあれば、空欄のカードに書き込み、貼る) 「学校に行けないこと」で生じる問題を解決するために国や企業が行っていることをタブレットで調べよう！ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">国や企業</th> <th style="text-align: left;">取り組み</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三菱自動車</td> <td>フィリピンの小学校にて新校舎建設</td> </tr> <tr> <td>国際NGOのワールドビジョン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>みんなの学校</td> <td>学校運営委員会を呼び出して、住民が学校運営をしてもらうための活動計画の作成</td> </tr> <tr> <td>アロジリ</td> <td>計画に沿って、集金を開始し、新しい学校をつくるために住民を呼び出す。</td> </tr> </tbody> </table> <p>感想</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学校に行けないことで起こる負の連鎖について、考える時間が過ぎて良かった。学校に行けない人は、約3億人いて、びびりした。学校に通えていることに、感謝の気持ちを、忘れない。1日1日を大切に過ごしていきたい。 </div> </div>		国や企業	取り組み	三菱自動車	フィリピンの小学校にて新校舎建設	国際NGOのワールドビジョン		みんなの学校	学校運営委員会を呼び出して、住民が学校運営をしてもらうための活動計画の作成	アロジリ	計画に沿って、集金を開始し、新しい学校をつくるために住民を呼び出す。
国や企業	取り組み											
三菱自動車	フィリピンの小学校にて新校舎建設											
国際NGOのワールドビジョン												
みんなの学校	学校運営委員会を呼び出して、住民が学校運営をしてもらうための活動計画の作成											
アロジリ	計画に沿って、集金を開始し、新しい学校をつくるために住民を呼び出す。											

○前回の学習内容を復習し、本時の課題を把握する。

「教育を受けられないことで起こる”負の連鎖”を抜け出そう」

○負の連鎖から抜け出せない理由を考える。
・貧困状況は、教育を受けられないことだけから始まるものではなく、様々な状況や理由から負の連鎖に陥り、抜け出せなくなる可能性があることを確認する。

○負の連鎖を抜け出すために、どのような支援があるのかを調べて付箋に書き、SDGsカードに貼り付ける。

○負の連鎖を抜け出すためにできることを班で考え、発表する。

・負の連鎖から抜け出すことができた事例などを取り上げ、社会として取り組むことの重要性を認識させる。

○感想・まとめ

・授業を通して学んだことを振り返りながら自分自身ができることについて感想を交えながらまとめる。

実践の様子
第2時

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS PART 2
教育を受けられないことで起こる“負の連鎖”を考えよう

3組

1. 自分が「負の連鎖」の中にいたとしたら、自力で悪循環から抜け出せるかを考えよう。抜け出せるのであれば、どうやって抜け出すのか、抜け出せないのであれば、どうして抜け出せないのか考えてみましょう。

「抜け出せない...自分一人では絶対に抜け出すことができない。学校をどうにか見つからないと教育を受けられないから、自分一人が学校をつくることができないから。」

2. 「負の連鎖」を抜け出すために、周り（家族、地域、国）からどのようなサポートがあれば抜け出せるのかを調べてフセンに書こう
例：学校に行けない → 学校をつくる
収入が少ない → フェアトレードの商品を買う

※ 青年海外協力の隊やフェアトレードについて調べてみよう！

「仕事ができない → 自分でもできる仕事を見つける
食料が買えない → 働く」

3. 「負の連鎖」を抜け出すために私たちにできることを班で考え、まとめよう。
①「負の連鎖を抜けだそう」用紙に2で書いたフセンを貼る。
②共通や関連するものなどのグループでフセンを並べかえたりして、どんなことができるか考えて、まとめよう。
③紙で発表の練習をしよう。

感想
なかなか抜け出すことができない簡単には解決することができない難しい問題だなと思いました。私はコンビニでのおつりを全て募金することを考えました。これからは積極的に募金しようと思います。

負の連鎖を抜けだそう用紙 6班 募金をする

負の連鎖を抜け出すために私たちにできることはいろいろありますが、募金や寄付、海外協力隊、ボランティアなどの支援をすることで、現在の暮らしは、楽になるかなと思います。これから大人になる、アタマがますますいくらしの人たちはいなくなりたいので、フェアトレード商品の購入で、世界の子供たちが学校に通えるようにする。

青年海外協力隊
・世界の途上国に派遣され、ボランティアとして、現地の公共事業や社会福祉などの支援を行う。

青年海外協力隊...
日本政府が行う政府開発援助の一環として、外務省所管のJICAが実施する海外ボランティア派遣活動。170以上の国の協定が結ばれている。

フェアトレード...
貧困の多い途上国に経済的・社会的に弱い立場にある生産者と経済的に強い立場にある先進国の消費者が対等な立場で行う貿易。適正な賃金の支払いや労働環境の整備などを通じて生産者の生活向上を図ることが目的。

学校をつくる
学校に行けない人達の近くに学校をつくる。



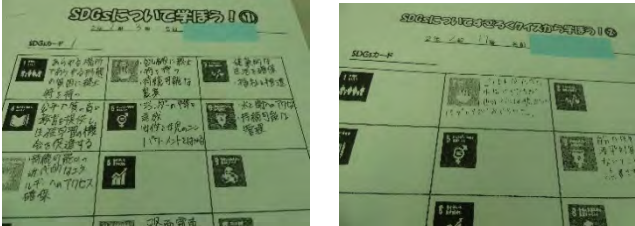
学校をつくる
学校をつくる
学校をつくる

学校に井戸や給水タンクを設置する

食べ物などを届ける
食べ物や物を支援する(贈る)

書き損じは
書き損じはかきを寄贈する
○1枚の書き損じはかきで1人ひとりに学校に通える。

ボランティア
おつり
コンビニなどのおつりを全て募金する
学校の設置、教材、教師の確保のために、寄付や募金をする。
学習支援ボランティアなどに協力する。
本や映画、インターネットなどで世界や日本の教育の現状を知る。
教育支援の活動力を仲間や団体で募金をする。

単元名	身の回りにあるSDGsに気付き、ジブンゴト化を目指そう！	
対象校種	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	総合的な学習の時間
教科の目標	身近にあるSDGsに気付き、自分にできることにつなげていこう。	
実践の様子	<p>① 校内のSDGsの環境を整える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教室、校内エントランス等にSDGsの17の目標、その内容についての説明(国連ホームページからの引用)を掲示する。 ・SDGs17項目の内容について簡単に学ぶことができるように説明文も順を追って掲示していく。 ・職員研修でSDGsについて共通理解する。(職員研修たより第7号に記載) 	
	 <p>2階への階段付近すべてに 教室だけでなくすべての目に入る場所に</p>	
	<p>② ~④SDGsについて知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスでYouTubeを通してSDGsについて世界の現状を知ること、意識していかねばならないことを学ぶ。(ワークシート) ・身近なSDGsについて意識する。 ・文化祭を活用し、事前に全クラスですごろくゲームを通し理解を深める。また、実際に文化祭のプログラムにSDGsのクイズを入れる。(ワークシート:知らなかったこと、驚いたこと等をまとめる) 	
	 <p>すごろくゲームを通して 文化祭で</p>	
	 <p>最初の授業では内容を確認しながら進める。</p>	
<p>⑤SDGsを意識した宿泊学習にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内やウォークラリーの中で、タブレットを用いてSDGsを見つけることを課題のひとつとする(タブレット管理徹底の元学校から持参する)。 ・SDGsの17項目を意識できるように、宿泊学習のしおりとして、すべての生徒にラミネートし配付する。 ・各グループに特に意識する3項目を振り分け、まずは特化して探することができるようにする。 		



教員を含む全員に配付

いつSDGsについて見つけていけばよいか意識できるように、宿泊施設で、食堂で、ウォークラリー中に、会津若松散策等で…としおりにも記載し分かりやすくする。



⑥SDGsの何に当てはまるか、どういうことが配慮されているかをグループで話し合いを通して理解を深めながらまとめを進める。

- ・SDGs のステッカーをまとめに使用する。どのグループがどの項目を見つけることができたか分かりやすくする。また、まとめている時にどうしてそう思ったか聞いていくことで、生徒の理解も深まる。また、教員側の考えも伝えていくことで、SDGsへのお互いの理解を深める。



まとめた模造紙とともに、宿泊学習中にいちばん多く見つけられたSDGsをNo.1から掲示

⑦SDGsを中心に発表を進める。また、何番目のゴールか分かりやすいようにSDGsカードを黒板に掲示して進める。

※「ゴー・ゴールズ！ すぐろくでSDGsを学ぼう」は、国際連合広報センターが作成した教材です。

単元名	地球をみつめて 小単元 家でも学校でも SDGs を目指して	
対象校種	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	総合的な学習の時間
教科の目標	SDGs の大切さを確認し、身近な取り組みを調べた上で、社会への意識を進めるために他者への働きかけを実践することができる。	
実践の様子	<p>① SDGs について知ろう (次ページに指導案あり) ユネスコの冊子「私たちがつくる持続可能な社会」を使って、17の達成目標について知る。 個人→グループで、早急に達成すべき重要度について話し合う。 (SDGs カードを使って話し合うことで、内容を意識して順番を決めることができる。)</p> <p>① 調べたことを友達に伝える方法を考えよう 自分たちが調べたことをどういう方法で友達に伝えるか話し合う。</p> <p>伝える準備をしよう 紙芝居 ポスター 動画 (CM) パワポなど</p> <p>伝えたい方法を選び、資料を作成する。 資料に必ずSDGs のマークを入れて、どの分野について考えているのかを分かりやすくする。</p> <p>② 調べたことを伝えよう</p> <p>パビリオン形式で、たくさんの発表を聞いて、多くの「持続可能な社会をつくる」ために必要な目標について理解を深める。</p> <p>③ まとめをしよう</p> <p>キャノン化成さんのSDGs の取り組みについて教えていただき、社会が自分たちに参加できることを改めて考える。</p>	



授業の展開（導入）

(◎評価, ☆重点スキル育成のための手立て, A つなぐ発問, B 教科の見方考え方を働かせる発問)

学習活動及び内容（学習形態）	支援と評価	
	T1の動き	T2の動き
<p>自分たちの身の回りにある課題を解決するにはどのような方法があるだろうか。</p>	<p>・17のゴールを達成するための課題を確認し、次時に行動宣言を創ることを伝える。</p>	
<p>1 個人で考えた課題の解決方法を共有し、分析する。 (グループ) (1) 問題点とそれを解決するための方法を付箋に記入する。</p>	<p>B 考えた解決策で問題点を解決できるだろうか</p>	
<div data-bbox="427 452 753 571" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題点 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 解決策 × × × × × × × ×</p> </div>	<p>・問題点とその解決策を付箋に記入するように声をかける。 ・グループで意見がスムーズに共有できるように、1班2～3分程で発表できるように声をかける。</p>	<p>・プリントの準備と各自が考えた解決策が記入できるように、付箋を配布する。 ・考えが分類できない班に対して、難しい場合は付箋を座標軸の中心に貼るように促す。</p>
<p>(2) 付箋に記入した解決策を説明し座標軸で分類する。</p> <div data-bbox="178 654 475 828" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>↑ 個人</p> <p>← 現在 将来 →</p> <p>↓</p> </div> <p>・個人が考えた問題点と解決策をグループ内で全員が説明する。 ・グループで付箋を4つの領域に分類する。</p>	<p>☆SDGsカードを使って、話し合いの中で、17の目標の内容を意識させる。</p>	
<p>(3) 解決策を分析し、ポジショニングマップで不足している領域の意見を補う。</p>	<p>・解決策とそれによって解決できる問題点も発表するように伝える。</p>	<p>・マップで埋まっていない場所があれば、新たな案が無いかな声をかける。 ・発表者が決まった班には、発表内容を検討するように伝える。</p>
<p>2 1でまとめたことを発表し、問題点や解決策の共通点を探す。(一斉) (1) 4つの観点から分類した課題と解決策を共有し、ホワイトボードの写真を撮りスタディノートの掲示板で共有する。 (2) 選ばれた班の代表が、出てきた案を発表する。 ・各班の解決策を聞き、必要なものはメモをとる</p>	<p>・解決策同士をつなぐことができるか、課題の共通点がないかの視点で発表を聞くように伝える。</p>	
<p>3 SDGsのためにできることをまとめる。(グループ)</p>	<p>A ○○という問題点と関連する問題点はあるだろうか？ A ○○と□□という解決策は関連付けられるだろうか？</p>	
<p>(1) 最優先で解決したい課題を1つ選び、同じ課題を選んだ班のまとめを参考にし、SDGsのためにできることを話し合う。 (2) スタディノートのボーン図にまとめて、スタディノートの掲示板に掲示する。</p>	<p>◎ D1：言語活用力 共有した意見から共通点や相違点を発見し、自分の意見をまとめ、伝えることができる。</p>	
<div data-bbox="375 1572 686 1758" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> </div>	<p>・ボーン図を用いて、考えを整理して、課題を解決させることができるか考えるように伝える。 ・同じ課題を選択した班を意図的に指名し、考えの広がりを持てるようにする。</p>	
<p>4 発見した問題点や解決策のつながりを共有し、次時の活動内容を確認する。(一斉) (1) 班の代表が、つながりを発表する。 (2) ポスターを作成し、校内に掲示して下学年にもSDGsの達成を呼びかける。</p>		<p>・今までの活動を生かし、つながりや考えの変容が分かりやすいように、新しい考えを記入するときは赤で記入するように声をかける。</p>

※スタディノートの掲示板については、他の支援ソフトで代用可能。交流ソフトを率先して活用したい。

<p>単元名</p>	<p>・未来の仕事を考える～持続可能な社会を目指して～ ・国際理解教育からSDGsを考える</p>
<p>対象校種</p>	<p><input type="checkbox"/>小学校 <input checked="" type="checkbox"/>中学校 <input type="checkbox"/>高等学校 <input type="checkbox"/>特別支援学校 総合的な学習の時間</p>
<p>教科の目標</p>	<p>・未来の仕事を考える過程を通して、現代の課題とSDGsとの関連を考える。 ・国際理解教育講演会とSDGsをつなげる。</p>
<p>実践の様子</p>	<p>① 総合的な学習の時間において、中高連携探究活動の一環として「未来の仕事を考える～持続可能な社会を目指して～」という課題で授業を行った。自分の将来の夢をもとに、高校生との話し合い活動を行った。その後、「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」を活用して、現代社会の課題（問題点）について挙げ、SDGsの17の目標とどのような関連があるかを話し合い、特に興味のある目標について発表した。</p> <p>② 12月、国際理解教育講演会を実施した。JICA海外協力隊に参加された方、元JICAの職員の方、お二人からケニア、ウガンダ共和国についての紹介と現状に関するお話をいただいた。それぞれの国が抱える課題に関する理解を深めたうえで、SDGsの17の目標とどのような関連があるかを話し合った。SDGsカードを並べ、関連のある目標のカードを選択しながら話し合った。</p> <p>③ 廊下に「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」を設置し、総合的な学習の時間や理科の授業等、SDGsとの関連を図ることが可能な内容で活用できるようにしている。</p> <p>④ 教室背面黑板にSDGsカードを掲示し、生徒のSDGsへの関心を高められるようにしている。英語表記、日本語表記になっているので、英語の学習にもつながっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">      </div>